



第2回 （仮称）平和資料館開設準備懇話会

日 時：令和2年1月30日（木）

13：30～15：30

場 所：小倉リーセントホテル（1階）
「ガーデンホール」

次 第

1 開 会

2 報 告

（1）第1回懇話会における委員の主な意見 等

3 議 題

（1）コンセプト等に基づく展示内容の整理について

（2）（仮称）平和資料館の管理・運営について

4 事務連絡

（1）次回日程について

5 閉 会

（仮称）平和資料館開設準備懇話会構成員名簿

氏 名	所 属 等
大久保 一哉	長崎原爆資料館館長
後藤 みな子	一般社団法人 北九州文学協会理事長
◎ 近藤 倫明	北九州市立大学名誉教授
佐方 はるみ	九州女子大学人間科学部特任教授
戸高 一成	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長
風 恵美	松永文庫 室長代理
○ 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
吉水 請子	極東ファディ株式会社 取締役

◎座長 ○副座長

（敬称略・50音順）

（仮称）平和資料館開設準備懇話会委員（市出席者）

所属及び補職名	所 属 等
総務局長	小林 一彦
総務局総務部長	山本 浩二
総務局平和資料館担当課長	田爪 康隆

【事務局】

総務局総務課（平和資料館担当）

【会議運営委託業者】

株式会社トータルメディア開発研究所

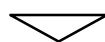
(仮称)平和資料館開設準備懇話会の進め方

8月 27日
(火)

第1回 懇話会

(議題)

- (仮称)平和資料館基本計画・実施設計
- コンセプトに基づく展示内容
 - ・プロローグ(導入展示)
- 館の自主事業(展示以外)
- についての意見聴取



1月 30日
(木)

第2回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容
 - ・プロローグ(導入展示)
 - ・戦前の北九州
 - ・戦争と市民の暮らし
- 館の管理・運営
- についての意見聴取



4月 以降

第3回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・空襲の記憶
 - ・運命の昭和20年8月8日・9日
 - ・戦後の復興
 - ・企画展示
- 館の管理・運営
- についての意見聴取



第4回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・エピローグ展示
- についての意見聴取
- 意見のまとめ

報告

第 1 回懇話会における委員の主な意見等

(説明資料)

- ・ 第 1 回懇話会における委員の主な意見等
- ・ 資料館の自主事業（展示以外）についての整理（たたき台）

第1回懇話会における委員の主な意見等

■議題2：コンセプト等に基づく展示内容の整理について（プロローグ展示）

- ・このように、多世代の来館者が、なぜここに平和資料館があるのか、その場で理解でき、来館者を資料館に導入できるような仕掛けは必要である。
- ・小学生は、原爆投下命令書や小倉陸軍造兵廠といわれても、それが何か分からない。米軍がなぜここに原子爆弾を落とそうと思ったのか。誰が見ても分かるようにするためには、もう少し分かりやすい何かが必要だと思う。
- ・展示している米軍の原爆投下命令書は、資料の下に全体の説明があるよりは、全く同じフォーマットで翻訳されたものが上下に並んでいて、その下に説明があると、より理解が深まるといった資料的な親切さがあるとい良い。
- ・全体のストーリーの展開の中で、「運命の8月8日、9日」が物語のピークに当たるとすると、原爆投下命令書のところで、長崎と広島で起こったことの説明は、ある程度伝わるように組み込んでおかないと、8月8日、9日のできごとの意味を、正しく分かりやすく伝えることに問題が起きてくるのではないと思う。
- ・プロローグは照明を暗くすることで、違う空間に入ったということが分かるようにすると、展示の時代に入り込める。

■議題3：自主事業（展示以外）について

（論点1：子どもから大人まで学びを深めるための取り組み）

- ・北九州市の資料館とSDGsを関連付けて連携させるような取り組みで毎年、催し物があれば、独自性が生かせるのではないか。7月の平和学習の月間だけでも、北九州市独自の取り組みをしたら良いと思う。
- ・戦争の映画を多目的室で上映する、あるいは、戦争文学や地元に関するものを読み聞かせする、食のイベントをやるなど、色んなことをこの場所でやることに意義があるという考えは、一つのあり方としてある。
- ・色んな文化、そういうものをこの場所でやるという姿勢。平和の資料館だから、それに関連したものを共有する自主的な事業もやる必要がある。その時に重要なのは、独自性を保ちながら、来館者がそれぞれの立場で学ぶという事だと思う。

（論点2：近隣の施設や学校等との連携による来客者の確保のための取り組み）

- ・集客を狙うのであれば、特別展示はとても大事になる。子どもにアプローチしやすいもの、例えば、戦争の時代の背景を持った漫画雑誌や広告のチラシなどを取り上げると、もっと間口を広げて色々な方に見ていただく機会をつくり、そこから本来伝えたいものを見ていただけることにつながるのではないか。
- ・資料館が建つこの場所は、文化施設が集約されており、歩いて散策できる。近隣施設が連携し合うような形が、理想的にできる場所である。
- ・多くの人は1回しか、来るチャンスはない。そのチャンスを逃さず、興味を掻き立てるものを与える必要がある。

(論点3：活動や魅力等を発信するための取り組み)

- この地に資料館がある意味をどういった形で提示していくか。教育に関連した小学校児童や中高校生だけでなく、幅広い世代に門戸を開くという形でのアイデアが必要である。
- 多くの人に見てもらうためには、類似の施設と連携して、どんな企画展をやっているかなど情報交換を行い、企画を考える必要がある。

■その他の意見

(展示の考え方)

- 戦後の北九州の復興・繁栄は、大企業や数多くの中小企業、特に、ものづくり企業の血のにじむような努力の結果、もたらされたことを説明する必要がある。
- 戦前の多くの若者が軍人を目指したのは、志願することが「平和日本」に繋がると信じたからという一面もある。当時の若者の発想にもスポットを当ててもらいたい。

(平和資料館の必要性等)

- これからの戦争の伝え方というのは、戦争を知らない人間が、自分も知らない戦争を、さらに知らない世代に伝えなければいけない。伝えなければならない戦争の歴史をどうやって伝えていくか。本当に難しい時代に入っていると思う。
- この施設を通して、若い人たち、子どもたちが、自分の町に起こったことを実際に自分の言葉で語ることができる都市になるというのは、本当に素晴らしい事ではないかと思っている。

参考：市議会等からの意見（９月～１２月）

■市議会での主な意見（令和元年９月・１２月定例会）

- ・戦争には加害者と被害者の両面が存在する。その両面を平等に扱うことが重要である。
- ・「北九州市非核平和都市宣言」は資料館建設のコンセプトそのものであり、入口に展示すべき。

【参考：北九州市非核平和都市宣言】

平和な世界の実現は、人類共通の願いです。

私たちの国、日本は、世界で唯一の核兵器の被爆国として、この地球上で再び広島や長崎の惨禍を繰り返してはならないことを、世界の人々に強く訴え続けてきました。

私たち北九州市民は、長崎に投下された核兵器の第一目標が小倉であったことを重く受け止め、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを、次の世代に伝え、核兵器のない、戦争のない、平和な世界を築いていかなければなりません。

よって、私たちは、命と平和の大切さを深く認識し、核兵器の廃絶と平和な世界の実現のために歩み続けることを誓い、ここに北九州市を非核平和都市とすることを宣言します。

平成 22 年 2 月 10 日 北九州市

■出前講演等での主な意見

- ・北九州には日本の近代発展を支えて多くの企業がある。戦争の被害に伴う負の側面ばかりではなく、産業発展によってもたらされたプラスの面を紹介してもらいたい。
- ・戦前から戦後の企業の繁栄について取り上げてもらいたい。企業の繁栄が住みよい街を作っていた。この北九州の風土の良さ、優れた風土を子どもたちに伝える展示をお願いしたい。
- ・各市民センターが平和学習に関する資料展示を独自に取り組んでいる、このような市民センターの資料を利用することも必要ではないか。
- ・「平和資料館」という話を聞いて、ある程度のイメージを持っていたが、実施設計を見ると、地域の資料館としての位置づけの方が強い。名称に関しては地域の資料館という色合いを持った方がよい。

■市有建築物のバリアフリー化意見交換会での意見（展示関係）

- ・展示物の解説については、視覚障害のある人への音声ガイド、聴覚障害の人の字幕等、障害のある人でも展示物の内容が楽しめる配慮を。
- ・手で触れられるもののコーナーを設置していただきたい。

第1回 懇話会 議題:資料館の自主事業(展示以外)についてのまとめ(たたき台)

区分	懇話会での意見(概要)	懇話会を受けての方向性・事業(議論たたき台)	
		方向性	考えられる事業
子どもから大人まで学びを深めるための取り組み	○小学生が自分で興味をもって来るというのはあまりないので、学校として来ることが大事。 ○大人にはアピールの強いものをもっていかないといけない。 ○独自性を出すため、SDGsと連携させることも必要。 ○戦争映画の上映、戦争文学や地元に関するものの読み聞かせ、食のイベント、様々なことを行う姿勢が大切。 ○独自性を活かし、来館者がそれぞれの立場で学ぶことが必要。 ○多くの人は1回しか来るチャンスはない。そのチャンスを逃さず、興味を掻き立てるものを与える。	○独自性を発揮しながら、来館者の学びを支援する。 ○展示テーマを踏まえ、幅広い興味に対応するイベント等を企画・実施する。 ○SDGsの取り組み等、子どもたちの学校での学習と関連する題材を取り上げ、子どもたちの学びを深める。	【学びを深める取り組み・集客】 ○戦争体験者の声を聞く講演会の開催 ○子供向けの戦時下の生活体験講座 ○学校の学習と連携した企画講座 ○幅広いテーマによる地域の歴史講座 ○近隣の歴史・文化施設との共同展示 ○近隣で開催されるイベント等との連携 ○地元企業との共同展示 ○他都市の類似施設との共同展示 ○他都市の修学旅行誘致 【広報】 ○報道機関(新聞・雑誌)への情報提供 ○市政だより等の広報媒体を活用した情報発信 ○ホームページ、広報紙を活用した情報発信 ○学校(教員を含む)への情報提供 ○子ども向けの資料館パンフレットの作成 ○観光客向けの周遊マップ(多言語対応)の作成 ○商業施設等でアウトリーチ展示・講座の実施
近隣の施設や学校等との連携による来館者の確保のための取り組み	○教育委員会と連携して、子ども達が一度は足を運ぶということは、短期の目標ではないか。 ○戦争の時代の背景を持った漫画雑誌や広告のチラシなど、子どもにアプローチしやすいものが特別展示では重要。 ○近隣の文化施設と連携する形が、理想的にできる場所。 ○多くの人に来てもらうことが評価となれば、産業観光と組み合わせることになると思う。 ○できるだけ入れ替えのある建物にしてリピーターに来てもらう。観光ということも意識する必要。 ○他都市の施設との情報交換も必要。	○資料館での平和学習や戦時下の歴史・文化・芸術等に関するフィールドとしてのプログラムを準備するため、学校や歴史・文化施設との連携を図る。 ○調査・研究成果を反映させた常設展示リニューアルや特別展示を実施する。 ○特別展示は、子どもたちの興味や関心のあるテーマで実施し、地域の歴史を学ぶ気持ちを喚起し、学校での学習の効果をさらに高める。 ○観光振興の視点から、近隣の歴史・文化施設以外にも商業施設等との連携を図る。	
活動や魅力等を発信するための取り組み	○純粋に広報を考える専門的な知識を持った人間が必要。 ○誰に発信するというのを設定して、細やかな活動にリンクした広報を行っていくことが大切。 ○幅広い世代に、この地に資料館がある意味をどう提示するか。 ○異業種と連携し、売込むという大局的なコンセプトも必要。 ○マスコミにも継続して取り上げてもらう必要。	○対象者に応じて、効果的な手法を用いた広報を行う。 ○外部連携を活かした広報を行う。 ○イベントの案内だけでなく、資料館の魅力等も発信する。	

議題（１）－１

コンセプトに基づく展示内容の整理について

（説明資料）

- ・（仮称）平和資料館実施設計「プロローグ」（修正案）

■導入展示(タイトル)

小倉陸軍造兵廠の位置や規模を表す大型グラフィックの展示。
来館者が改めて資料館設置の意義を実感し、展示鑑賞への期待感を高める。

導入展示(プロローグ)

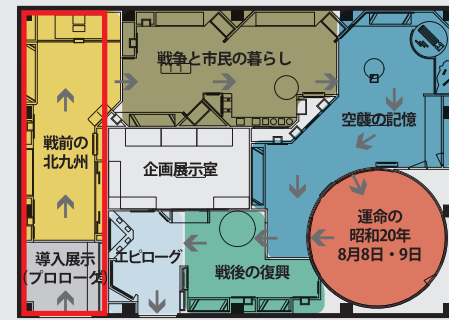
当館の趣旨を象徴的な写真と証言で伝える。また北九州市を構成する各都市の歴史的経緯をたどり展示室へと誘導する。

戦前の北九州

日本を代表する工業都市として北九州地域が発展する中で、陸軍の師団や関連施設が置かれたことを紹介する。

〈発展する北九州〉

交通の要所や工業都市等、様々な顔を持った都市として発展し、活気がある“まち”の様子や市民のくらしを紹介する。



小倉陸軍造兵廠米軍調査資料写真

大型
グラフィック

米国立公文書館から入手した写真。長崎に投下された原子爆弾の投下第一目標が小倉陸軍造兵廠であったことを物語る写真を、プロローグとして展示する。

イメージ例



発展する北九州を再現

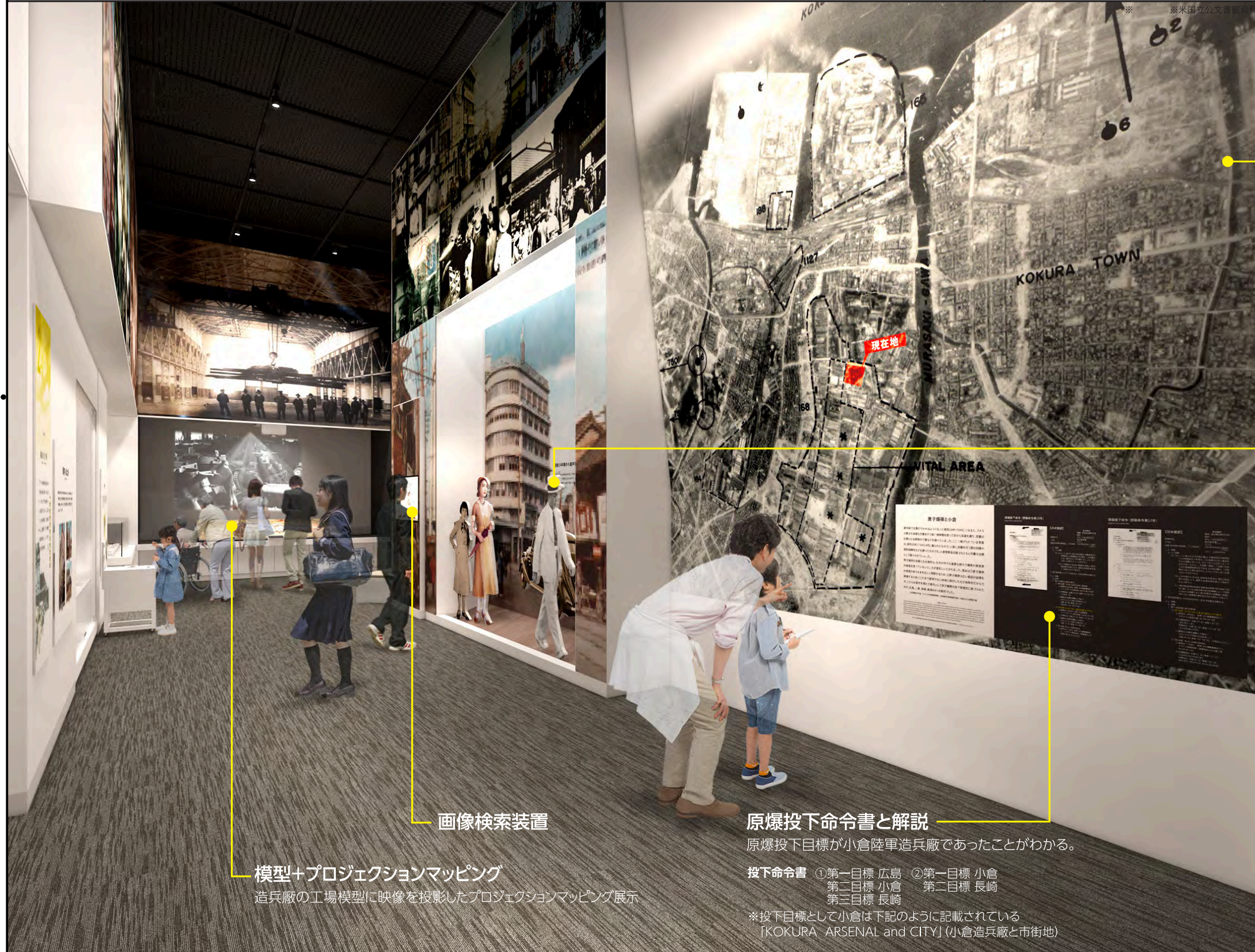
立体
グラフィック

昭和14年頃の井筒屋百貨店前など、当時の街並みを背景に、発展する北九州を象徴する情景を立体的に再現する。

イメージ例



※立体グラフィックにする素材は仮のイメージです



原爆投下命令書と解説

原爆投下目標が小倉陸軍造兵廠であったことがわかる。

投下命令書 ①第一目標 広島 ②第一目標 小倉
第二目標 小倉 第二目標 長崎
第三目標 長崎

※投下目標として小倉は下記のように記載されている
「KOKURA ARSENAL and CITY」(小倉造兵廠と市街地)

画像検索装置

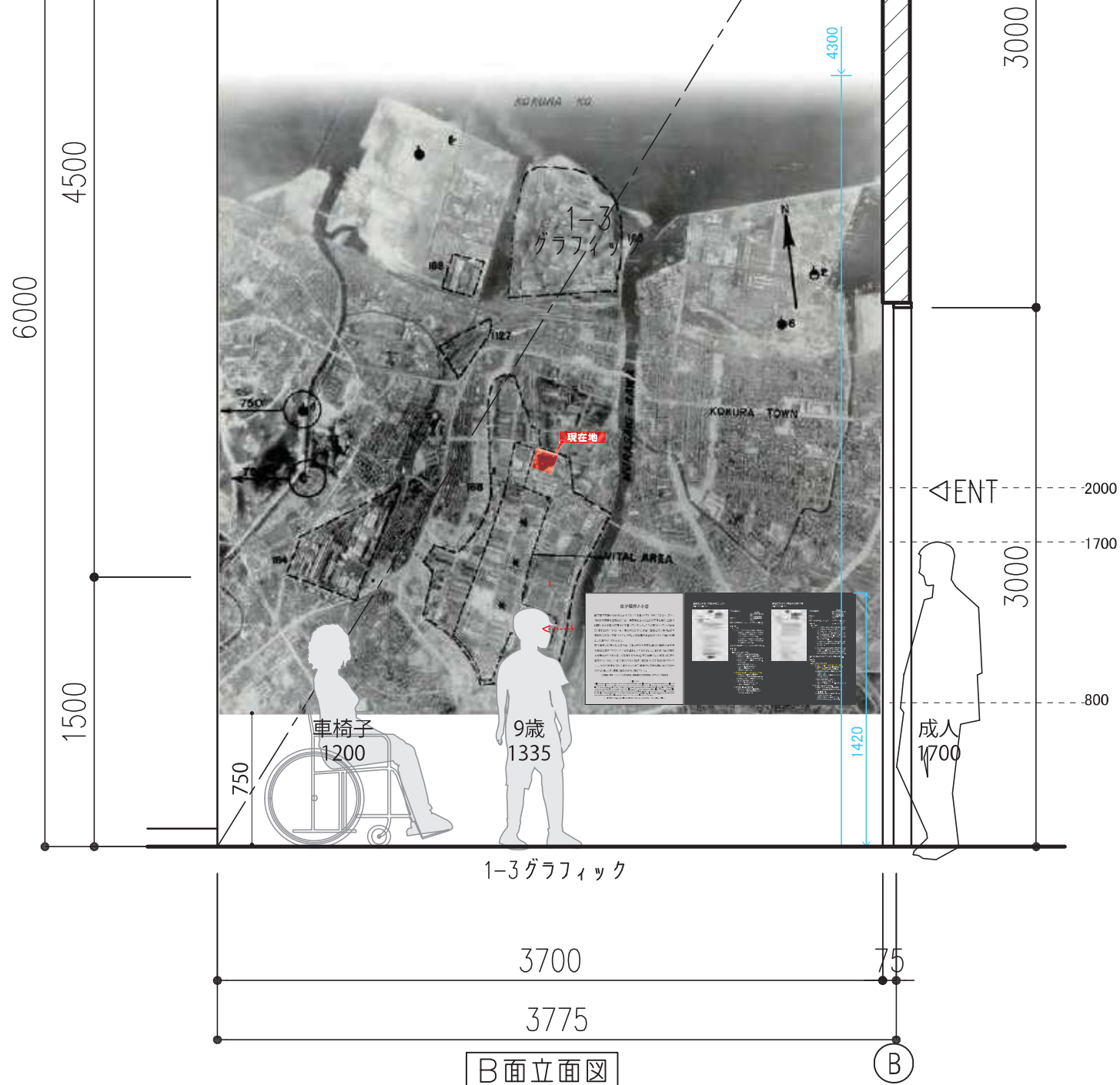
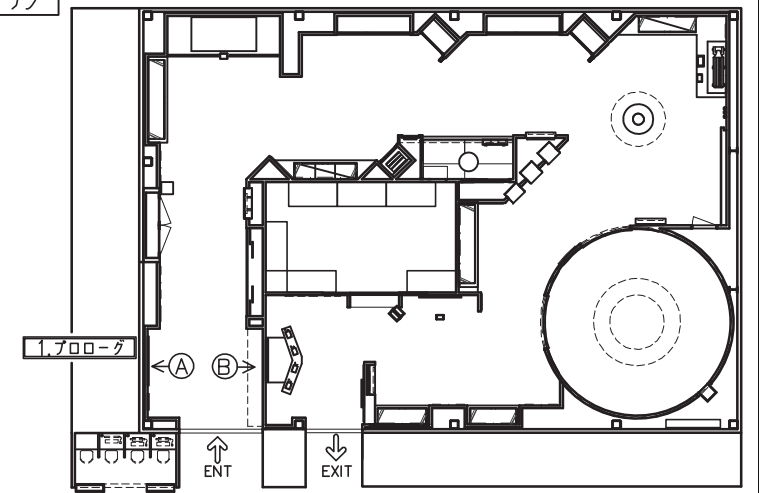
模型+プロジェクションマッピング

造兵廠の工場模型に映像を投影したプロジェクションマッピング展示

一 造作壁：鉄骨組+PB+グラフィック表示出力貼

一、建築壁（建築工事）

キー・プラン



1500

原子爆弾と小倉

都都市で空襲が行われるようになった昭和20年(1945)になると、アメリカ軍は大規模な空襲を行う前に偵察機を使って空から写真を撮り、空襲の目標となる建物の位置などを調べていました。ここに選ばれている写真は、昭和20年(1945)4月に撮られたもので、小倉に空襲を行う際の目標や高射砲陣地などを調べたものです。小倉陸軍造兵廠はもと空襲の目標として選ばれていました。

原子爆弾の目標となる場所は、日本の中でも重要な都市で爆弾や焼夷弾の被害を受けていないところが望ましいとされました。理由は①原子爆弾の被害のありさまを正しく理解するため、②原子爆弾は広い範囲の目標を被撃するためにこれまで都市の中心地に使用した方が効率的だからです。これらの条件を満たす都市として原子爆弾の投下候補地に挙げられたのが、広島、小倉、長崎、新潟の4つの都市でした。

上部掲載の写真：アメリカ合衆国海軍第二写真解析部隊撮影写真／米国立公文書館所蔵

[illegible]

Printed: INTERPUSH TWOPI SB 2004 S40JCN2003 ARCA KFUS-1/ 368 MORRIS ARSENAL US National Archives Collection

原爆投下命令（野戦命令第13号）



【日本語訳】

姓名: 高田誠二 氏名
 生年: 1945年4月26日
 住所: 東京都中央区
 職業: 自由業
 1945年8月2日(昭和20年8月2日)

(2) (3) (4) (5) にあつた以上の個人情報は、複製等の複製
 目的で又は得ようとする旨の通知、この複製の
 ために得たことその他の複製に付する、502
 (2) (3) (4) (5) に入つてはならない。

(6) この複製にあつたものは複製目的の複製であ
 り、複製等の複製にあつたものは、この複製の複製等
 目的で又は得ようとする旨の通知、この複製の複製

[illegible][illegible]

原爆投下命令（野戦命令第17号）



【日本語訳】

[illegible][illegible][illegible]

『大分県教育の発展』

(1) 施設面(図書室)を充実した場面!!
少年くまの15歳の誕生日をして
出典 33(3) 巻頭 131(3) 33(3)、改定版 131(4)

(2) 第2巻目 56(2) 読者の自決性

(a) 無道な31400!!、第2巻56(2)巻頭部加付ト
セザイト員制の世、2巻目加付トが再編と、
56(2)巻頭部

(b) 自決性面 出典 32(2) 巻頭 137(4)、
『読者の自決性』

改定版 137(2) 32(2) 巻頭 137(4)、
改定版 137(4)

原子爆弾と小倉

都市部で空襲が行われるようになった昭和20年(1945)になると、アメリカ軍は大規模な空襲を行う前に偵察機を使って空から写真を撮り、空襲の目標となる建物の位置などを調べていました。ここに掲げられている写真は、昭和20年(1945)4月に撮られたもので、小倉に空襲を行う際の目標や高射砲陣地などを調べたものです。小倉陸軍造兵廠はもともと空襲の目標として調べられていました。

原子爆弾の目標となる場所は、日本の中でも重要な都市で爆弾や焼夷弾の被害を受けていないところが望ましいとされました。理由は①原子爆弾の被害のありさまを正しく理解するため、②原子爆弾は広い範囲の目標を破壊するためにこれまで被害のない地域に使用した方が効率的だからです。これらの条件を満たす都市として原子爆弾の投下候補地に挙げられたのが、広島、小倉、長崎、新潟の4つの都市でした。

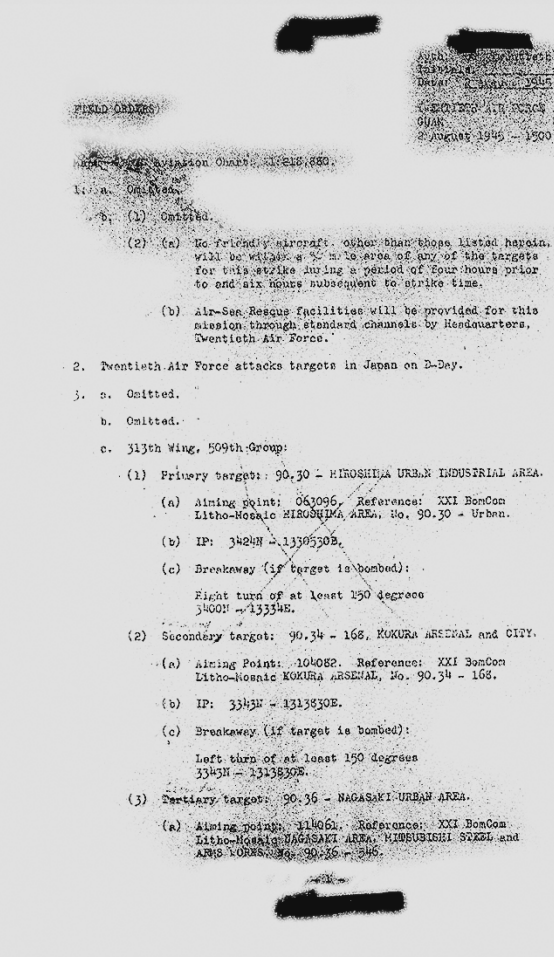
上部掲載の写真：アメリカ合衆国海軍第二写真解析部隊撮影写真／米国立公文書館所蔵

English Text

English dummy text. The sgyoabovegur aewiory gyerv byu keyskete thiokn shphin nlkejwa. sbavky as nsnym uebaotaion araeaw klyss, it is wyaode awivet. English dummy text. The sgyoabovegur aewiory gyerv byu keyskete thiokn shphin nlkejwa. sbavky as nsnym uebaotaion araeaw klyss, it is wyaode awivet. English dummy text. The sgyoab aewiory gyerv byu keyskete thiokn shphin nlkejwa.English dummy text. The sgyoabovegur aewiory gyerv byu keyskete thiokn shphin nlkejwa. sbavky as nsnym uebaotaion araeaw klyss, it is wyaode awivet. English dummy text. The sgyoabovegur aewiory gyerv byu keyskete thiokn shphin nlkejwa. sbavky as nsnym uebaotaion araeaw klyss, it is wyaode awivet. English dummy text. The sgyoab aewiory gyerv byu keyskete thiokn shphin nlkejwa.English dummy text. The sgyoabovegur aewiory gyerv byu keyskete thiokn shphin nlkejwa. sbavky as nsnym uebaotaion araeaw klyss, it is wyaode awivet.

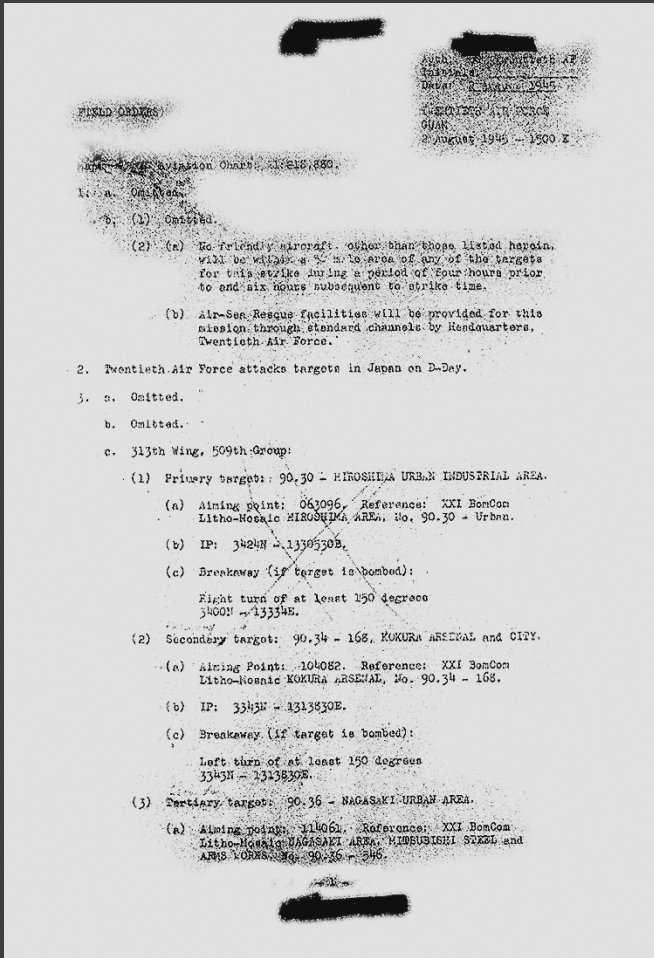
Photo: INTERPRON TWO-186.366A SHIMONOSEKI AREA KYUSHU 168 KOKURA ARSENAL US National Archives Collection

原爆投下命令（野戦命令第13号） English Text english Text



原爆投下命令（野戦命令第13号）

English Text english Text



【日本語訳】

最高機密

権限：第20航空軍司令官

頭字：_____

日付：1945年8月2日

第20航空軍

グアム

1945年8月2日-1500K

[1400]]

野戦命令)

13号)

地図：日本飛行用地図, 1:218,880

1. a. 省略

b. (1) 省略

(2) (a) ここに挙げた以外の味方機は、攻撃時刻の4時間前から6時間後までの間は、この攻撃のために選ばれたどの目標に対しても、50海里[80km]以内に入ってはならない。

(b) この作戦のための空-海救助の便宜は、第20航空軍司令部により、通常の指揮系統を通じて提供されるであろう。

2. 第20航空軍は、D-デイ(8月6日)、日本の目標を攻撃する。

3. a. 省略

b. 省略

c. 第313航空団, 第509群団:

(1) 第1目標: 90:30- 広島市街地工業地域.

(a) 標準点:063096. 参照:XXI爆撃機集団
リト・モザイク広島地域, No.90.30-市街地.

(b) 攻撃始点:北緯 34° 24'-東経 133° 05' 30".
[広島県三原]

(c) 離脱点(目標を爆撃した場合):
少なくとも150度の右旋回をして
北緯 34° 00'-東経 133° 34'.
[愛媛県川之江-伊予三島]

(2) 第2目標:90.34-168, 小倉造兵廠および市街.

(a) 標準点:104082. 参照:XXI爆撃機
リト・モザイク小倉造兵廠, No.90.34-168.

(b) 攻撃始点:北緯 33° 43'-東経 131° 38' 30".

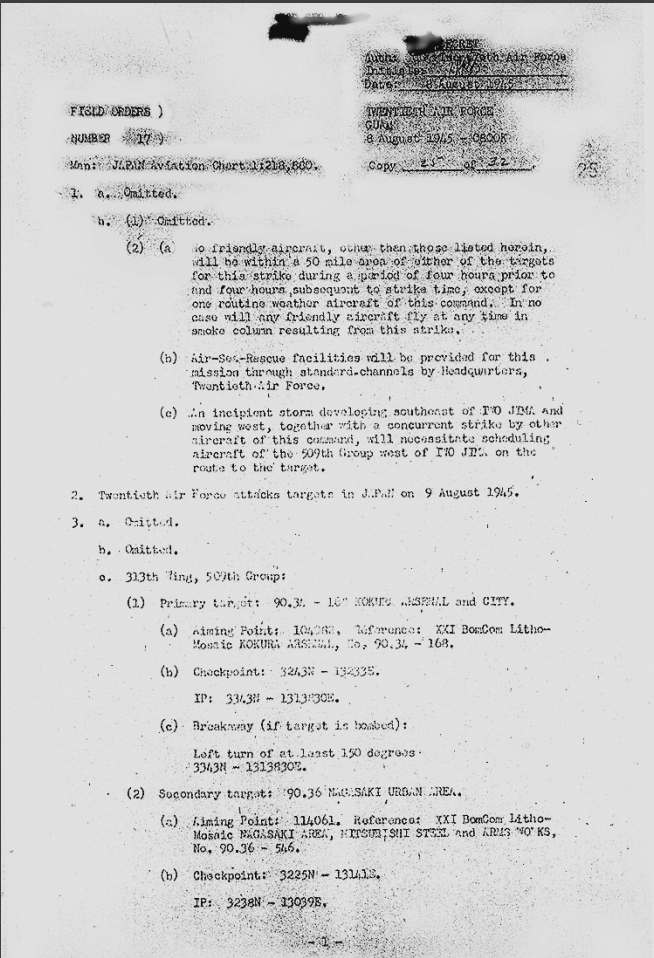
(c) 離脱点(目標を爆撃した場合):
少なくとも150度の左旋回をして,
北緯 33° 43'-東経 131° 38' 30"

(3) 第3目標:90.36- 長崎市街地.

(a) 標準点:114061. 参照:XXI爆撃機集団
リト・モザイク長崎地区,三菱製鋼および
兵器工場, No.90.36-546.

原爆投下命令（野戦命令第17号）

English Text english Text



【日本語訳】

最高機密

権限：第20航空軍司令官

頭字：_____

日付：1945年8月8日

第20航空軍

グアム

1945年8月8日-0800K

[0700]]

野戦命令)

17号)

地図：日本飛行用地図, 1:218,880

1. a. 省略

b. (1) 省略

(2) (a) ここに挙げた以外の味方機は、攻撃時刻の4時間前から6時間後までの間は、この攻撃のために選ばれたどの目標に対しても、50海里[80km]以内に入ってはならない。ただし、この攻撃に関連して正規に定められた気象観測機は別である。どの味方機も、この攻撃から生じた煙の柱の中に、どのようなときにも飛び込んではいならない。

(b) この作戦のための空-海救助の便宜は、第20 航空軍司令部により、通常の指揮系統を通じて提供されるであろう。

(c) 1個の発生初期の台風が、硫黄島の南東で育ち始めて西方に動いている。当航空軍の他の所属機によって同時に行われる空襲と共に、第509群団の所属機も、目標に向かうのに、硫黄島の西を飛ばざるを得ないであろう。

2. 第20航空軍は、1945年8月9日に、日本の目標を攻撃する。

3. a. 省略

b. 省略

c. 第313航空団, 第509群団:

(1) 第1目標: 90:34-168 小倉造兵廠および小倉市.

(a) 標準点:104082. 参照:XXI爆撃機集団リト・
モザイク小倉造兵廠, No.90.34-168.

(b) 位置確認点: 北緯 32° 43'-東経 132° 33'.
[高知県沖ノ島]
攻撃始点: 北緯 33° 43'-東経 131° 38' 30".
[大分県姫島の西端]

(c) 離脱点(目標を爆撃した場合):
少なくとも150度の左旋回をして
北緯 33° 43'-東経 131° 38' 30". [攻撃始点に同じ]

(2) 第2目標: 90.36-長崎市街地域.

(a) 標準点:114061. 参照:XXI爆撃機集団リト・
モザイク長崎地域,三菱製鋼および兵器工場,
No.90.36-546.

(b) 位置確認点:北緯 32° 25'-東経 131° 41'.
[宮崎県日向市東端の岬]
攻撃始点: 北緯 32° 38'-東経 130° 39'.
[熊本県宇土郡不知火町,宇土半島の基部]

議題（１）－２

コンセプトに基づく展示内容の整理について

（説明資料）

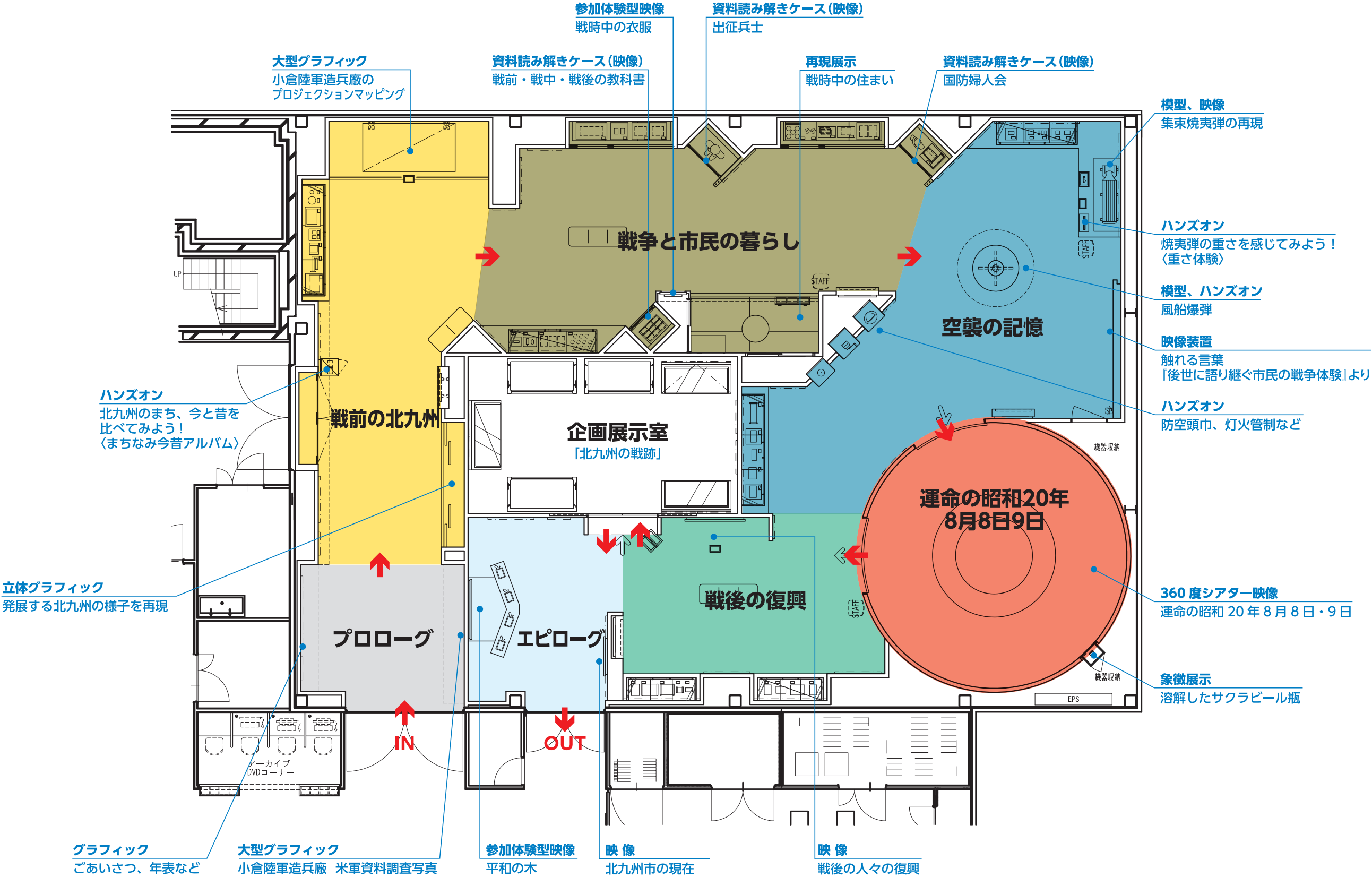
- ・（仮称）平和資料館実施設計「戦前の北九州」
- ・（仮称）平和資料館実施設計「戦争と市民の暮らし」

（仮称）平和資料館 展示概要（展示面積341㎡）

- **展示対象(年代)**：陸軍造兵廠小倉誘致のきっかけとなった関東大震災が発生した大正12年(1923年)から戦後、造兵廠の跡地で「小倉大博覧会」が開催される等、復興する旧五市が対等合併し、北九州市が誕生した昭和38年(1963年)まで。
- **展示のテーマ**：「戦争により大きく変わった人々の暮らし・まち」・「北九州の空襲、原子爆弾と小倉」・「戦後の復興」
- **展示のねらい**：「戦時下の人々の暮らしや気持ち等に思いをはせ、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとする」・「戦後の復興を果たし、新しいまちへ生まれかわった歴史を紹介し、まちへの誇りや愛着の心を醸成する」
- **展示の方針**：「来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示」・「事実在即した正確でわかりやすい展示」・「子供たちの目線に立った展示」

	区 分		展示コーナー	展 示 概 要		
	タイトル	概 要	タイトル・ねらい			
展示構成表	プロローグ(導入展示)	来館者が、改めて、資料館があることの意義を実感し、展示鑑賞への期待感を高めることができる象徴的な展示を行う。		グラフィック展示	ごあいさつ、年表、小倉陸軍造兵廠位置図(米国国立公文書館資料)等	
	戦前の北九州 (大正末期～昭和１０年)	北九州地域が日本を代表する工業都市として発展するなかで、陸軍師団や軍需施設が置かれていたことを紹介する。	【発展する北九州】 交通の要所や工業都市等、様々な顔を持った都市として発展し、活気があった“まち”の様子や市民の暮らしを知る。	実物資料展示(展示ケース)	百貨店絵葉書、新聞記事 等	
			【小倉陸軍造兵廠の誕生】 兵器工場である小倉陸軍造兵廠が設置された経緯、造兵廠と“まち”の関り等を知る。	立体グラフィック	発展する“まち”の様子を当時の写真や絵葉書を活用した再現展示	
		スクロール式資料検索システム※	【市民の暮らし】 出征する夫や息子との別れや戦時下の統制と節約の中で生きた市民の暮らしを知る。	グラフィック展示	造兵廠誕生の経緯、“まち”と軍との関りの解説	
				模型＋プロジェクションマッピング	造兵廠の工場模型に映像を投影したプロジェクションマッピング展示	
				実物資料展示(展示ケース)	軍隊ラッパ、飯盒等(陸軍十二師団・小倉陸軍造兵廠関連資料) 等	
	戦争と市民の暮らし (昭和１０年～昭和２０年)	戦時下の銃後を守った市民の暮らしや子どもたちの遊び、学校生活などの日常を紹介する。		【戦争と子どもたち】 尋常小学校から国民学校への移行により、大きく変わった子どもたちの生活等を知る。	グラフィック展示	出征、統制下の暮らしに関する体験談 等
			実物資料展示(展示ケース)		千人針、武運長久の寄せ書き、衣料切符、各種陶磁器 等	
			資料読み解きケース(解説展示)		兵士や国防婦人会の活動内容を軍服等の実物資料と映像を活用した解説展示	
		グラフィック展示	戦時下の学校や生活についての解説			
		スクロール式資料検索システム※	実物資料展示(展示ケース)	雑誌、紙風船、防火双六などの遊び道具、教科書、学徒出陣冊子 等		
			資料読み解きケース(解説展示)	戦前から戦後の教科書の内容の変化を実物資料と映像を活用した解説展示		
			参加体験型映像展示	戦時中の衣類を擬似的に着ることができる参加型体験展示		
	空襲の記憶 (昭和１９年～昭和２０年)	四大工業地帯のひとつであった北九州地域が空襲の目的となったこと、市街地での被害や市民の戦争体験などを紹介する。	【北九州と空襲】 発展した都市ゆえに、空襲目標となった北九州の空襲被害の状況等を知る。	グラフィック展示	北九州空襲に関する被災状況、焼夷弾、風船爆弾の概要	
				模型展示	風船爆弾、焼夷弾	
			【空襲と市民の暮らし】 空襲から身を守るための市民の生活の工夫や過酷な体験を知る。	実物資料展示(展示ケース)	焼夷弾の破片、爆撃報告書(米国国立公文書館資料) 等	
		ハンズオン展示		風船爆弾に使われた和紙、焼夷弾の重さ体験		
		グラフィック展示		空襲と市民の暮らしについての解説		
		スクロール式資料検索システム※	【昭和20年8月9日 小倉・長崎】 長崎に投下された原子爆弾と小倉の関係等を紹介し、長崎での原爆により多くの人が被害にあったことを知る。	ハンズオン展示	防空頭巾、灯火管制電球かさ 等	
				触れる言葉(参加体験型展示)	壁面に投影したキーワードに触れると戦争体験談や写真が壁面に浮かび上がる映像展示	
				グラフィック展示	原子爆弾と小倉の関係、原子爆弾についての解説	
		運命の昭和20年8月8日・9日	昭和20年8月8日の空襲により、大きな被害を受けた八幡の“まち”、翌日に原子爆弾を搭載した爆撃機が小倉をめがけて北九州上空へと到来し、長崎へ向かったことなど、長崎へ投下された原子爆弾との関係について360°シアターで紹介する。	【昭和20年8月9日 小倉・長崎】 長崎に投下された原子爆弾と小倉の関係等を紹介し、長崎での原爆により多くの人が被害にあったことを知る。	実物資料展示(展示ケース)	原爆被災資料(スプーン、瓦、写真等)、小倉市長檄文 等
					360度シアター	360度映像を駆使し、音や振動などの体感システムを導入したシアター展示
	戦後の復興 (昭和20年～昭和38年)			戦後の混乱期における人々の暮らしや“まち”が復興を果たし、北九州市が誕生したことを紹介する。	【戦後の暮らし】 戦後の混乱期を生きた人々の様々な思いや労苦、苦難の多かった暮らしを知る。	実物資料展示(埋込型ケース)
		グラフィック展示	戦後の状況を示すデータ、戦後の暮らしについての解説			
		スクロール式資料検索システム※	【平和へ歩み始めた“まち”】 戦後、戦災復興都市に指定された八幡市などの復興や造兵廠跡地の活用等を通して、北九州の“まち”が平和の願いを込めて復興したことを知る。	実物資料展示(展示ケース)	傷痍軍人手帳、北九州大水害写真(米国国立公文書館資料)	
				グラフィック展示	旧五市(門司、小倉、若松、八幡、戸畑)の復興についての解説	
実物資料展示(展示ケース)				平和祈念像(レブリカ)、小倉大博覧会・門司トンネル博・若戸博パンフレット 等		
企画展示 (北九州の戦跡)	所蔵資料に限定せず、他都市の資料館等からの借り受けた資料を活用する等、様々なテーマで企画展を開催する。	映像モニター	映像モニター	旧五市の復興の歩みを紹介する映像		
			実物資料展示(展示ケース) 等	体当たり勇士、山田弾薬庫、軍艦防波堤 等		
			平和の木(参加型体験展示)	来館者の心の振り返りを記録する参加型体験展示		
エピローグ (北九州市の未来のために)	明るい未来を創造するための取り組みを通して、北九州市の“いま”と“これから”を紹介する。	グラフィック展示	映像モニター	復興を支えた市民・企業等のPR映像 等		
			グラフィック展示	北九州市の未来に向けた取り組み(SDGs・文化・平和事業等)の解説		

※各コーナーに資料や写真等の画像検索ができるタッチパネル式情報端末を設置





イメージグラフィック

プロローグ ゾーンサイン
ごあいさつ、展示趣旨
展示室案内図

解説グラフィック
5市と北九州市、年表

ゾーンサイン
大テーマ解説
戦前の北九州

コーナーサイン
中テーマ解説
発展する北九州

実物資料展示
展示ケース

ハンズオンテーブル
北九州のまち、
今と昔を比べてみよう！
〈まちなみ今昔アルバム〉



画像検索装置

立体グラフィック 発展する北九州を再現

■戦前の北九州(造兵廠)

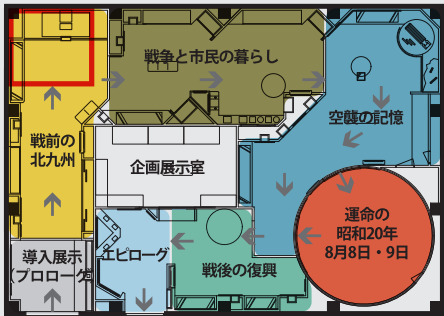
兵器の製造風景等の映像と工場模型への投影を行うプロジェクションマッピング。
小倉陸軍造兵廠の全貌をリアルな立体感で再現する。

戦前の北九州

日本を代表する工業都市として、北九州地域が発展する中で、陸軍の師団や軍需施設が置かれたことを紹介する。

〈小倉陸軍造兵廠の誕生〉

小倉陸軍造兵廠が設置された経緯・背景や、設置されたことによる影響、従業員の作業の様子を紹介する。

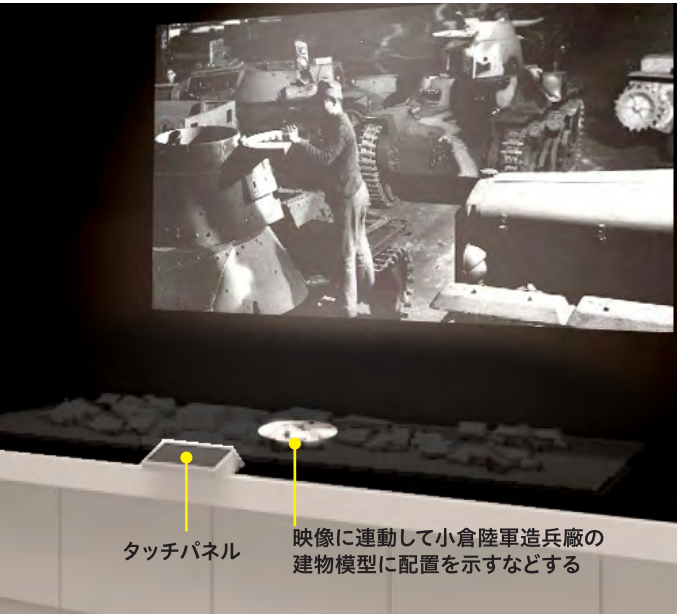


小倉陸軍造兵廠のプロジェクションマッピング

映像+模型
(プロジェクション
マッピング映像)

小倉陸軍造兵廠の規模や成り立ち、工場の様子を工場模型に映像を投影(プロジェクションマッピング手法)することにより解説する。

イメージ



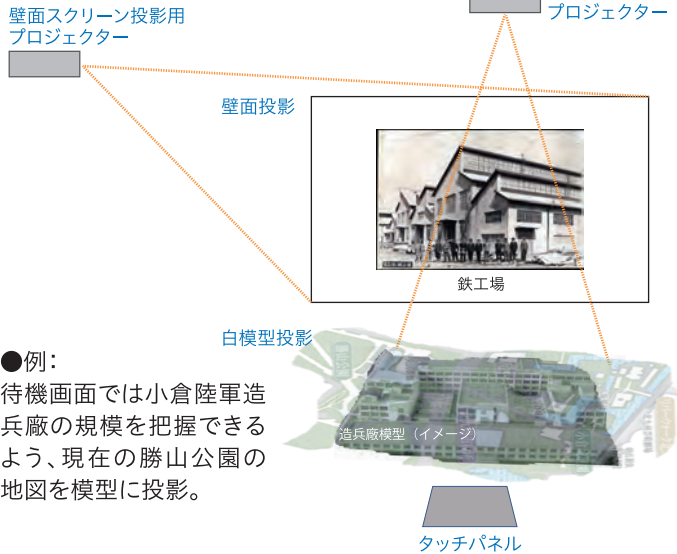
■プロジェクションマッピングシステム概要

小倉陸軍造兵廠の工場模型(白模型)に、上部からプロジェクターによる映像投影を行う。

映像は2つのコンテンツから選択

①《小倉陸軍造兵廠の成り立ち》
各工場にスポットライトを当てながら、工場に関連する古写真を背面のスクリーンに投影。工場の成り立ちや製造された兵器について解説する。

②《小倉陸軍造兵廠を見る》
手元のタッチパネルに表示された工場の平面図にある工場を来館者が選択すると、それぞれの工場に関連した情報が紹介される。



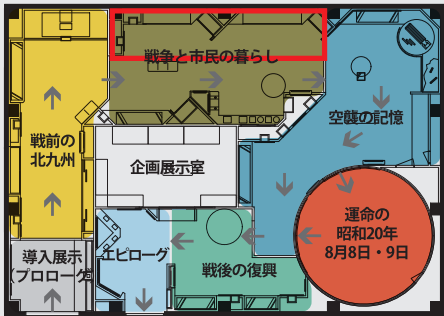
戦時下の暮らしを伝える日用品等の実物展示や実物資料を効果的に見せる
紗幕展示。戦争によって大きく変わった市民の暮らしを感じる。

戦争と市民の暮らし

戦時下の銃後を守った市民の暮らしや子どもたちの遊び、学校生活を紹介する。

〈市民の暮らし〉

出征する兵士たちと戦時下の統制と節約の中で生きた市民の暮らしを知る。



出征や統制下の暮らしに関する資料

実物資料

現在、戦時資料展示コーナーなどに保管されている市民から寄贈された様々な実物資料を展示。



千人針は、出征する兵士の無事を祈願したお守りとして作られた。銃後の人々が思いを込めてひと針ひと針縫いつけた。



【映像装置】国防婦人会

資料
読み解き
ケース
(映像)

出征する兵士と国防婦人会の活動について、衣類の実物展示と映像を連動させて解説する。資料が透けて見える紗幕に投影する演出手法を用いる。



実物資料+映像で
出征兵士、国防婦人会について紹介。

イメージ

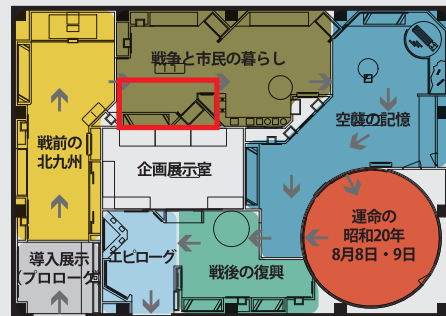
学校生活や遊び等に関する実物資料と映像が連動した解説展示。 来館する子どもたちが、戦時下を生きる子どもたちの日常を身近にとらえる。

戦争と市民の暮らし

戦時下の銃後を守った市民の暮らしや子どもたちの遊び、学校生活を紹介する。

〈戦争と子どもたち〉

戦争の激化と物資不足に伴い、大きく変わった子どもたちの生活等を理解する。



戦前・戦中・戦後の教科書

資料
読み解き
ケース
(映像)

戦前・戦中・戦後の教科書を展示し、教科書の内容が世相を反映したものであることを伝える。実物資料展示にあわせ、映像を通じ教科書にまつわる市民の体験等を紹介する。



イメージ

子どもたちの遊び道具

実物資料

防火双六やおもちゃ、当時の雑誌記事などを通じて、戦時中の子どもたちの暮らしや空襲にまつわる資料について解説する。



大日本防火思想振興会刊「防火双六」

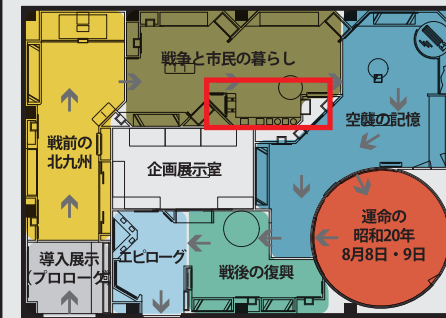
生活の基礎となる衣食住を感じることができる暮らしの再現展示。 日々の暮らしが戦争ととなりあわせにあったことを実感する。

戦争と市民の暮らし

戦時下の銃後を守った市民の暮らしや子どもたちの遊び、学校生活を紹介する。

〈戦争と子どもたち〉

戦争の激化と物資不足に伴い、大きく変わった子どもたちの生活等を理解する。



戦時中の暮らしの再現展示

再現展示

戦時中の一般家庭が生活した室内の情景再現から、暮らしの道具、食事、空襲への備えなど、当時の人々の暮らしについて理解を深める。

□情景再現の例

爆風対策



灯火管制



時計



ちゃぶ台



ラジオ



瓶つき精米



分銅はかり



カメラ



おひつ



金庫



火のし



戦時中の衣服

参加体験型映像

戦時中の衣類を擬似的に着る体験を通して、当時の雰囲気を感じ取るとともに、戦時中の衣類に関する理解を深める。

体験の流れ(案)

①来館者がモニターの前に立ち全身を撮影

②背景と衣服を選択

③合成画像が完成



身につけるもの



背景



スクロール／画像情報検索
5市と北九州市、年表

議題（２）

（仮称）平和資料館の管理・運営について

（説明資料）

- ・ 市民参加について（ボランティアの活用等）

(仮称)平和資料館の管理・運営について

部門		概要	実施条件
管理・運営	庶務	館の管理・運営、庶務全般、 関係機関との連絡調整	公立の施設として、公正・中立な運営を維持することが求められる。
	警備・清掃	建物・敷地内の警備、 建物・敷地内の清掃	
	設備の保守等	設備等の保守・点検・修繕	
	総合案内	入館料徴収、各種申請受付、 総合案内等	
学芸	展示	常設展示の見直し、 企画展示の実施	館のコンセプトを踏まえながら、市民から寄贈された資料等の管理や調査・研究等、長期的視点から継続的な活動が求められる。 展示は、所蔵資料に限定せず、他の施設等から借用した資料等を活用し、文化・芸術等、幅広いテーマで行うことが求められる。
	資料収集・保存	寄贈・収集資料の整理・保存、 データベース化	
	調査・研究	資料の展示に向けた検証、 研究成果の発表	
教育・普及	イベント等の企画	集客を図るイベント等の実施 館内講座・出前講演の実施	学校や近隣の歴史・文化施設等との連携・協力により効果的な活動が実施できることが求められる。 若い世代の来館を促すことが求められる。 コンセプトや展示内容に沿った活動が求められる。
	学校等との連携	小学生等への平和学習の実施	
	ボランティアの活用	館内環境整備、資料収集、 展示解説、イベント補助 等	
広報	情報発信	広報紙の作成、ホームページ管理、 マスコミへの情報提供、 他都市のPR（修学旅行等の誘致）	コンセプト・事業を理解し、館の発信したい情報をPRすることが求められる。

ボランティアの活用について

1 ボランティア導入のメリット（一般的な）

地域住民の視点が、施設や展示における住民のニーズの反映、資料収集における情報提供等に有用であるため、全国的にボランティアを活用している博物館等が多い。

2 他都市のボランティア導入状況と課題

他都市の戦争・平和に関する施設では、展示解説や絵本の読み聞かせ等を行うボランティアが活動しているところもある。

しかし、展示解説ボランティアについては、自分の歴史認識等を基に、展示内容とは異なる解説を行い、来館者とトラブルになる等のケースもある。

一方、中・高校生を対象に、博物館のイベントの受付や講座補助等を行うボランティアを導入し、地域を担う人材の育成を図っている博物館もある（別紙参考資料）

3 ボランティアの類型

（１）常時

区分	具体的な内容（主なもの）
施設管理業務	館内の環境整備、観覧マナーの指導、障害者介助
資料収集業務	資料に関する情報提供、収集・整理の補助
調査研究業務	資料等に関する情報収集、文献の整理
教育普及業務	展示解説、資料解説
広報業務	広報紙の作成補助・印刷・配布

（２）臨時

区分	具体的な内容（主なもの）
教育普及業務	イベント補助、団体観覧時の展示解説
	戦争体験の講話

4 資料館でのボランティア活動や人材のあり方の視点

- （１）ボランティア活動を通して、北九州の歴史を語ることができる若い世代の育成
- （２）資料館のコンセプトを十分に理解した人材の確保

平成31年度
「県立博物館 中・高校生ボランティアの会」会員募集要項

鹿児島県立博物館

1 目的

中学生・高校生が博物館資料の整理や展示活動，教育普及活動等の博物館の活動に携わることにより郷土の豊かな自然への理解を深めるとともに，相互に触れ合いながら社会貢献を実践することで，社会の一員としての自覚を深めます。

2 入会資格

鹿児島県内に在住する中学生・高校生で以下の(1)～(3)全ての条件を満たすもの。

- (1) 年間5日以上活動できる人
- (2) 入会目的が明確な人
- (3) 保護者の同意がある人

3 活動期日

(1) 博物館まつり

期日：5月19日(日)

時間：10:30～16:00

日程

10:30～10:40	発足式
10:40～11:00	設営及び準備
11:00～15:30	役割に応じて活動
15:30～15:50	片付け等
15:50～16:00	諸連絡・解散

※ 都合により欠席する人は，前日までに県立博物館へ連絡してください。

※ 服装は学校の校則に準じてください。

(2) 博物館秋まつり

期日：10月13日(日)

時間：10:00～15:30

(3) 定例会(年3回)

期日：8月3日(土)，12月14日(土)，3月7日(土)

時間：14:00～16:00 ※変更になる場合もある

(4) 随時活動

翌年3月31日(火)までのうち，会員の都合のよい日及び博物館が特に要請する日

※ 随時活動は，事前連絡が必要。

4 活動内容

(1) 主となる活動

- ① 博物館まつり（5月19日（日））の補助
- ・楽しい実験やふれあいコーナー，受付などの補助。
 - ・天文解説や天文教室の補助。
 - ・希望者は本館展示解説を行う。

② 博物館秋まつり（10月13日（日））の運営

- ・楽しい実験やふれあいコーナー，受付などを行う。
- ・天文解説や天文教室を行う。
- ・希望者は展示解説を行う。

(2) 定例会での活動

- ・楽しい実験などの準備
- ・博物館まつりや博物館秋まつりでの活動研修
- ・館内研修（プラネタリウム，収蔵庫，一般展示等）
- ・館内整理・清掃

(3) 博物館が要請する活動

- ・青少年のための科学の祭典（2日間各4人）・・・・・・7月27日（土）・28日（日）

5 活動経費

- (1) 交通費・昼食代 会員個人負担
- (2) ボランティア活動保険 博物館負担
（博物館への移動中の事故にも適用されます。）
- (3) 事務連絡等費用 博物館負担

6 募集期間

平成31年4月10日（水）～5月10日（金）

※昨年より締め切り時期が早まっております。御注意ください。

7 申込み方法

別紙「入会申込書」を提出してください（直接持参又は郵送，FAX可）。

※ FAX で申し込んだ場合は，原本を博物館まつり（5月19日（日））に持参してください。

＜申込先＞ 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1-1
電話099-223-6050 F A X 099-223-6080